

ラックについての考察

ラグビーに興味を持っている多くの人達は、展開また展開、ダイナミックな継続プレーに感動する試合を期待しているのに、勝ち負けをきめるだけの格闘技に終わってしまって、ラグビーの面白さや楽しさを共有することではないことを残念がっています。トーナメントに勝ち残るために、プレーヤーは勝たなければならないの一心で必死であることはよくわかりますが、「成せば成る」方策を見いださねばなりません。

面白くない原因の一つとしてラックプレーが無策且無為であることがあげられます。ラックについて復習することにより、ネックとなっているあいまいさを解消し、既成概念に捕らわれない新鮮なプレーが、若々しい真剣なプレーヤーの挑戦目標となり、ラグビーの更なる普及発展の風土が作られることが必要だと思えます。

1. 「ラックとは・・・」からはじめましょう。

試合はボールの取り合いに始まり展開へとつながります。双方数人集まって地上のボールの取り合う scrummage は時には雑然としてもものになり、長々と(20分位)続くとありました。雑然としていましたので、loose scrum (ボールがプレーヤーにもたれている場合の団子状モール maul と並立)呼ばれました。再開の方法として行われるのは tight scrum と呼ばれました。組打ち合いが長々と続くことは面白くありませんので、整理しようと申し合わせがなされ、計画的組織的に行うボールの取り合いプレーとしてラックを導入し、ラグビー用語として定義づけました。雑然としていたものを意識的組打ちクッションプレーとして確立し、攻撃発射台(カタパルト)の観念が導入されました。

2. ルールブック上でのラックについて復習しましょう。

古い時代との違いを明確にするために、1971年(現代ラグビー進化の中期)と2006年を比較対照し、核心と変遷の後をたどりましょう。

1971年: 定義なし。21条 RUCK

A ruck, which can take place only in the field of play, is formed when the ball on the ground and one or more players from each team are on their feet and in physical contact, closing around the ball between them.

2006年: 定義に入っていて、16条参照となっています。

条文中のラック成立に関する表現は変わりありません。即ち、「ラックとは、双方の一人またはそれ以上のプレーヤーが立っており、身体を密着させて、地上にあるボールの周囲に密着するプレーのことをいう。オープンプレーは終了する。」そして、ラッキングが加わっています。

3. The Guide for Coaches によってプレーの普及が図られました。

この本によりラックプレーを紹介し、用語を定着させました。

ラックの効用について次のように書かれています。

QUALITY POSSESSION FROM RUCK

1 Commit opposition over gain line

2 First men over ball

3 Bind hard and tight, form wedge and scan

4 Don't be a fairy

Definitionとして内容はルールと同じですが、太字にして

standing on their feet, bodily contact, ball on the ground が強調されています

・その次に注目するに値する重要なことが書かれています。

Do not use the term " loose scrum " .

それまでよく使われていた「ルース」という用語を使ってはいけないというのです。

スクラムはボール取り合う組打ちのことです。漫然・雑然ではなく、組織的・計画的にボールを取り合うプレー即ちラックというプレーとラックという用語を導入し、タイトスクラムと並立させて、ゲームをより流動的・躍動的にしようと試みました。一方、ボールを持って捕まり双方数人で団子状になってボールを取り合うモールと並立させて展開継続をうながしました。

4. ラックプレーの現状

タックルされたプレーヤーの上に折り重なって倒れ込み即ちラックでない状態がラックとみなされ展開されている。タックルしたプレーヤーとタックルされたプレーヤーが地上に横たわるのは自然のなりゆきですが、その地点に到達したプレーヤーが意識的に、ボールを相手に晒さないために、(negative といわれても、姑息な方法と言われても) 彼等の上に倒れ込むのは反則とられるまでやるし、(相手もボールを放さないし)レフリーもプレーのながれとして反則と断定しにくく仕方なしに流れを継続させてしまっているのが現状です。その結果プレー継続しないスピーディでない原因となり、反則が多い原因となり、最終的に unplayable と判定する原因になっている。それは「ルールに無知なプレーヤーが無意識に(平気で)繰り返し反則して」といわざるを得ない現状ですから、改めてルールを列記しておきます。ラグビーは「立って」する競技であることを再確認しましょう。

5. 現状打開のために

まず、ラックは失敗プレー即ち前進失敗後プレーであるという理念を忘れてはなりません。そして、15条、16条を活かすことについて考えましょう。

できる(合法的)ことを積極的にプレーし、してはいけないことを絶対にしないことです。15条 5(c)についていえば、「置くことができる」の「できる」は単に可能であるという意味ではなく may と表記されています。may の意味は「してもよい」からさらにその方がよいと判断した場合はそのように「しなさい」という内容なので、flair を働かせて積極的にプレーすることが期待されているのです。

・15条関連

	和文	英文	
15条 5項 タックルされたプレーヤー	a	タックルされたプレーヤーは、ボールの上に、ボールをおおって、またはボールに近接して横たわって、相手側がボールを獲得するのを妨げてはならないし、プレーの継続のため、直ちにボールをプレーできるようにしなければならない。	A tackled player must not lie on, over, or near the ball to prevent opponents from gaining possession of it, and must try to make the ball available immediately so that play can continue.
	b	タックルされたプレーヤーは直ちにボールをパスするか、ボールを手放さなければならない。さらにそのプレーヤーは直ちに立ちあがるか、ボールから離れなければならない。	A tackled player must immediately pass the ball or release it. That player must also get up or move away from it at once.
	c	タックルされたプレーヤーはボールをいずれかの方向に置くことによってボールを手放すことができる。ただし動作は直ちに行わなければならない。	A tackled player may release the ball by putting it on the ground in any direction, provided this is done immediately.
	d	タックルされたプレーヤーは地面上でいずれかの方向にボールを押し進めること(前方にはなく)によってボールを手放すことができる。ただし動作は直ちに行わなければならない。	A tackled player may release the ball by pushing it along the ground in any direction except forward, provided this is done immediately.
	e	立っている相手プレーヤーがボールをプレーしようとする場合、タックルされたプレーヤーはボールを放さなければならない。	If opposition players who are on their feet attempt to play the ball, the tackled player must release the ball.

続く項目ではタイトタッチダウンについての「できる」は、可能であることを意味する can で記述されており、明確に区別されています。

・16条関連

	和文	英文	
16条 3項 ラッキング	a	ラックの中のプレーヤーは立ってしようと努めなければならない。	Players in a ruck must endeavour to stay on their feet.
	b	プレーヤーはラックの中で故意に倒れたり、膝をついてはならない。これは危険なプレーである。	A player must not intentionally fall or kneel in a ruck. This is dangerous play.
	c	プレーヤーは故意にラックをくずしてはならない。これは危険なプレーである。	A player must not intentionally collapse a ruck. This is dangerous play.
	d	プレーヤーはラックの上に飛びかかってはならない。	A player must not jump on top of a ruck.
	e	プレーヤーは頭と肩を腰より低くしてはならない。	Players must have their heads and shoulders no lower than their hips.
	f	ボールをラッキングするプレーヤーは、地面に横たわっているプレーヤーをラッキングするのではなく、またぐように努めなくてはならず、故意に踏んではならない。プレーヤーはボールに近接してのみラッキングすることができる。	A player rucking for the ball must not ruck players on the ground. A player rucking for the ball tries to step over players on the ground and must not intentionally step on them. A player rucking must do so near the ball.
16条 4項 その他の反則	a	プレーヤーはラックの中へボールを戻してはならない。	Players must not return the ball into a ruck.
	b	プレーヤーはラックの中のボールを手で扱ってはならない。	Players must not handle the ball in a ruck.
	c	プレーヤーはラックの中のボールを脚で払い上げてはならない。	Players must not pick up the ball in a ruck with their legs.
	d	ラックの中、またはラックに近接して地上に横たわっているプレーヤーは、ボールから離れようと努めなければならない。これらのプレーヤーは、ラックの中のボール、またはボールがラックから出てくるのを妨害してはならない。	Players on the ground in or near the ruck must try to move away from the ball. These players must not interfere with the ball in the ruck or as it comes out of the ruck.
	e	プレーヤーはラックから出てくるボールの上に、またはそのボールを越えて倒れ込んではならない。	A player must not fall on or over a ball as it is coming out of a ruck.

6. 現状に対する理由解明

ラックに対する既成概念を捨てることからはじめねばなりません。ルールを生かせばラックは明確に機能的な継続プレーになります。

ラック研究前に、展開継続のレベルアップのためにしなければならないことがあることがわかります。ボールを持って相手に捕まらないように走り、余しと交わして突破することと、捕まっても倒れることだけを考えないで、パスや適切なボールの置き方を考え無くてはなりません。外国チームも含めて有名チームが、勝ちたいために（理論的には不可と認識していても）ボールを確実に確保しつづけるために、基本的展開するよりも、（姑息な方法でも）確実着実なボール支配を優先させる結果であって、本来のよいプレーとは言えないのです。それを見て短絡的によいとおもって真似てはならないのです。一枚上をいく展開継続に挑戦することが、楽しいラグビーの創造に繋がり、勝利への近道でもあるのです。ナショナルチームを始め皆が見上げているトップクラスのチームが、よい見本を示してくれることによってすばらしいラグビーが発達する事が期待されているのです。展開継続のレベルアップからゲームの流れが盛り上がり、ラグビーが一段と面白くなれば、ラグビー愛好者がもっともっと増えるでしょう。

2006.02.19

西川 義行